おゆき
小山春夫　画
李　春　子　原作

これは
年月も場所も
さだかでは
ないがの
たしかに
あった
はなしじゃ
…………

だれだ？

おまえは
おまえは……

たいへんじゃ——っ!!
おゆきがあらわれたぞっ!!

まって!!
たずねたいことが……

死神のおゆきがきたぞ――っ!!

なに!!
おゆきが!!

おゆきだと!!
みんなでるんじゃないよ呪いをかけられっからね!!

こい!!はようおっぱらわんとどんなことになるかわからん!!
うんだ!!

どうかおしえてくださいまし……

十六年まえ家老さまの門前に赤ん坊をすてた人を……

ふん!!それがどうした赤子の一人や二人飢饉になりゃぁどこの村でもおかえしするわい!!
そうよなんだかんだといんねんさつけてこの村にたたりをかける気だろ!!

おーい
みんな
五平が
死んだ
ぞ！

そんな
……

なに
死んだ
！
長わずらいの
五平じいが
……

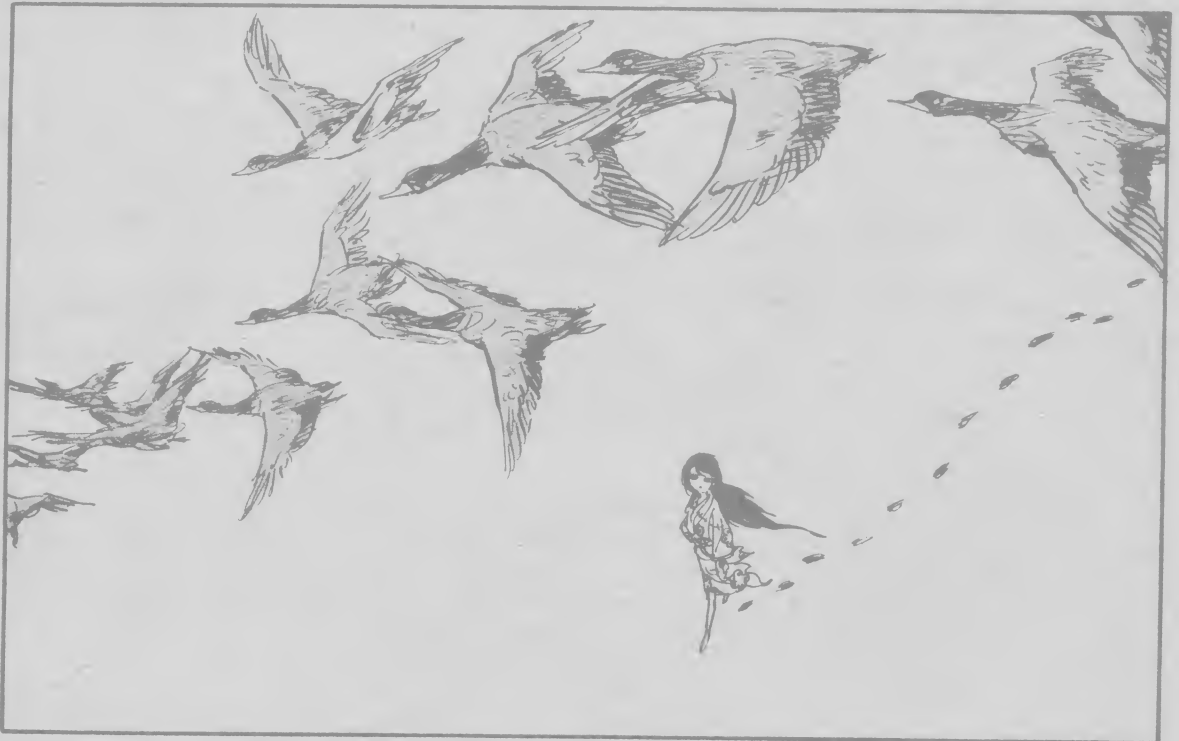
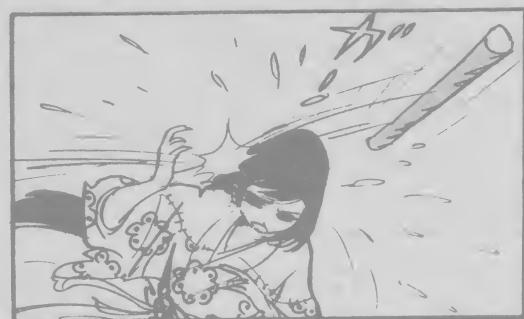
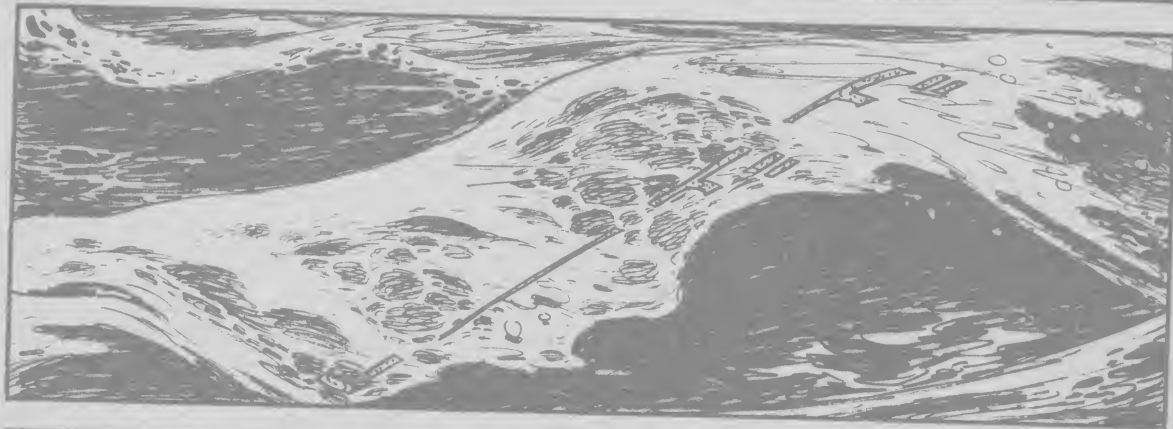
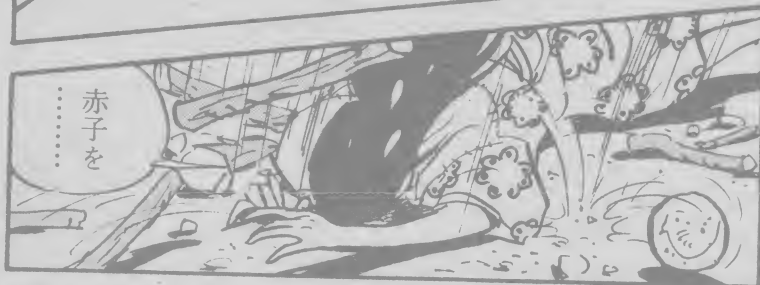
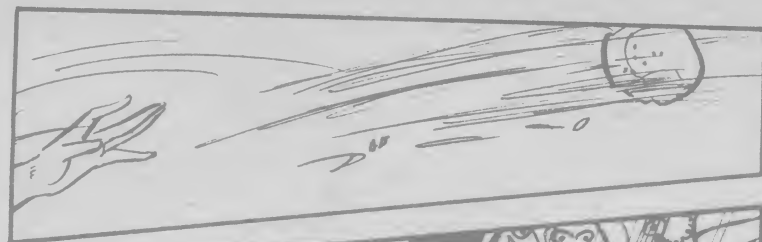
おそろしや…
……

これぁ
やっぱり
おゆきの
せいだ
村から
村へ
不幸の
たねを
まいてあるく
というのは
ほんとじゃった

とっとと
消え
失せろ
!!
二度と
この村に
ちかよる
な!!

出ていけ！
出ていけ！
塩を
まけ!!

おねがい！
おしえて
十六年
まえ……
赤子を
……

音造がもどってきた
音造がもどってきた……
はりつけになってもどってきた

わしらのねがいはききとどけてもらえんかった
年貢の免除もお救米の蔵出しも……

わしらに飢え死にせよということじゃ
なんとむごい……

あ、あ、あれをみい!!

お、おゆきじゃ!!

おゆきだ……
死神のおゆきだ……
とうとうこの村にあらわれた……

おしえてください……
十六年まえ捨て子をした人がいたら……

何をこくだどこの村でも赤子の三人や四人捨てとるわ!!
さあはやくこの村からでてってておくれ!!

そうだでていけ!!
これ以上の不幸をおこして村を全滅させる気か!!

おねがいおしえて……!!
家老さまの門前に赤子をすてた……

おねがい……
赤子をすてた……

いいかおぼえておけ!!
こんどあらわれたらぶち殺すぞ!!

あ……

……
……

ポーン

テーンテーン！
てまりは
どなたが
くれた

空(そら)でないてる
トービでござる

てまりかーえせと
ないでござる

あ!!

まりが!!

まりが——っ
!!
ああっ!!
あ——ん
きゃ——っ!!

あんちゃん
あんちゃ――ん!!

なにおゆきが……!!

あたいのてまりとってくれようとして……!!

あ……
まり……
おねえちゃん！
おねえちゃ――ん
……
ありがとうおねえちゃん……

テーテー……
てまりは
……どなたが
くれた

空で
ないてる
トービで……
……

おゆきは……
死神
なんかじゃ
ねえ……

おれたちと
おなじ……
あったかい
血の
かよった……

ヒュ

もう
どうにも
なんねえ
……

栄作の家ではみんなうえて死んだと
五平の家もそうじゃ

いずれおらたちも……

おっ!!
早鐘じゃ!
カ
カ
カ
や、役人だ!!
代官所の役人がきた!
うわっ!
な、なにをなさる!!

こ
これあいったいどうゆうことですだ

ふ！土百姓め！

わかりきったこと!! 人質だ 年貢をおさめるまでこやつらを人質としてあずかっておく!!

あんまりじゃ 稲がみのんねえのはおらたちのせいじゃねえだ

ガッ
ゲウッ

じっちゃ!!

死んだ!! 死んじまった!!
よいか 年貢をおさめるのはきさまらのつとめ 娘をうってでも金をつくるがよい

フギャーーッ
フギャーーッ

とうちゃん！
あんた………

この赤ん坊はもう育てられねえだよ………

おらたちだって生きてゆかれねえだ………

みんなあれをみろ!!

おゆきだ!!
死神だ!!
まだこの村からでていかねえで………

あいつのせいだ!!
あんなやつがうろついているからこの村に不幸が……!!

ぶっ殺してしまえ

そうだ そうだ!!
死神を 殺して 厄払を しなきゃ なんねぇ だ!!
殺せ———っ
ドドドド

まって くれ みんな!!
ころせ
ころしちまえ

あん ちゃん !!

おゆきは 死神 なんか じゃ ねえだ !!
どけ 佐吉 !!

ちがう!! おゆき は!!

じゃま するだ か!!

お おゆき は…… ……!!

ぶっ殺せ――っ!!

い、いかん
このままでは
あの娘が……
フフフ
すておけ
すておけ
われらの
しったことではない

うわーん
あれは……

天明五年
十一月四日
……
十六年
まえの
もんだ……

十六年
まえの…
すると
……
すると
おゆきは
……

この
訴状を
書いた
百姓の
……

おら
たちは
一体…
……

ち
ちき
しょう
!!

あいつら
……

数日後
この村で
一揆が起
つた。
それは
突然の
ように
……
訴状
訴状

佐吉は走った……
ぼろぼろになった訴状と真新しい訴状を握りしめて

江戸へむかってはしりつづけた……

それから
その一揆は
どうなったか
のう………

なにしろ
昔は
直訴を
すれば
はりつけに
された
もんじゃ、

どうにも
ならず
赤ん坊に
訴状を
つけて
お城の
門前に
捨てる
ことも
あった
そうな
………

完